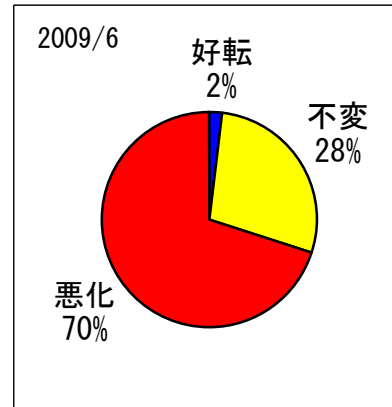
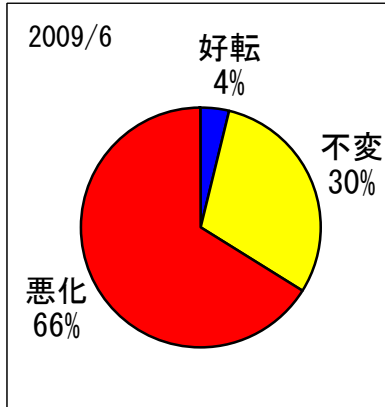
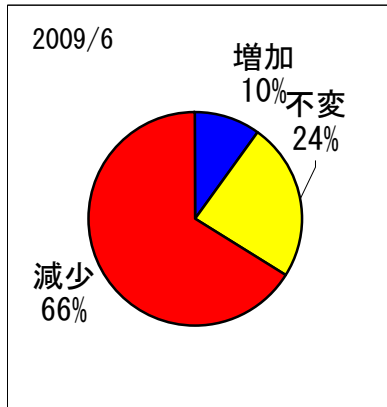
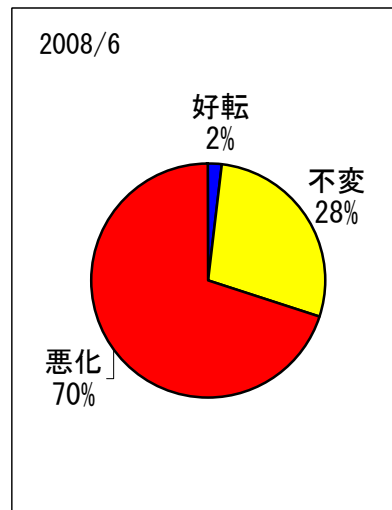
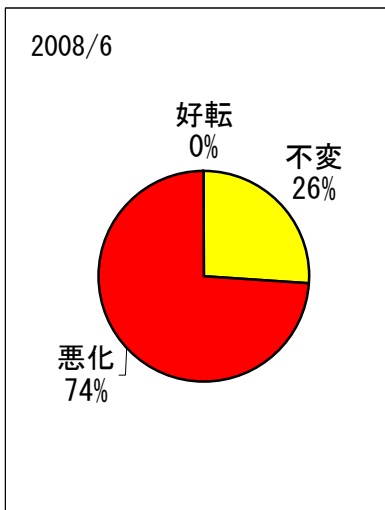
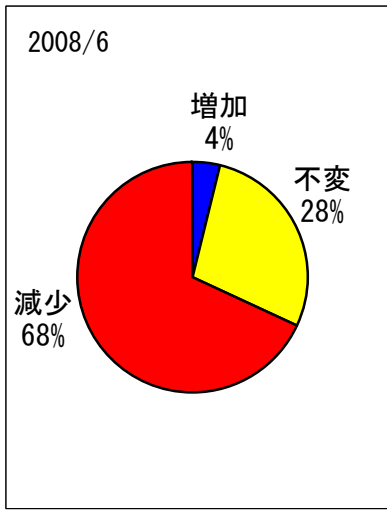


# データから見た業界の動き (平成21年6月分)

売上高 (前年同月比)

収益状況 (前年同月比)

景況感 (前年同月比)



■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

区 分	製造業			非製造業			合 計		
	08/6	09/5	09/6	08/6	09/5	09/6	2008/6	2009/5	2009/6
対前年,前月,当月									
売上高	-55	-75	-65	-70	-70	-50	-64	-72	-56
収益状況	-65	-75	-75	-80	-63	-53	-74	-68	-62
景況感	-65	-70	-75	-70	-73	-63	-68	-72	-68

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

## ■ 概 況

本県の6月の景況は、全業種のD I値では、売上高-56（前年同月比+8）、収益状況-62（前年同月比+12）、景況感-68（前年同月比±0）と非製造業のポイント改善を受け、全体では前年同月比でD I値の回復傾向がみられる結果となった。

しかし、業種別で見ると、製造業のD I値は、売上高-65（前年同月比-10）、収益状況は-75（前年同月比-10）、景況感-75（前年同月比-10）となっており、前月までと比較してポイントの悪化の幅は小さくなっているものの、全ての項目でマイナスとなっている。

一方、非製造業のD I値では、売上高-50（前年同月比+20）、収益状況-53（前年同月比+27）、景況感-63（前年同月比+7）と全項目でプラスに転じており、製造業と非製造業のポイントの上での明暗は、はっきりと分かれた形となった。

6月の月例経済報告で政府は「景況の悪化に歯止めが掛かった」とし、事実上の「景気底打ち宣言」を行った。しかし、連絡員の報告からは、ほぼ全業種において、こうした実感を受けることはなく、依然として中小企業にとっては、厳しい経営環境が続いているのが実態である。

## ■ トピックス

政府発表の景況感と中小企業の実態には大きな隔たりがあるため、今回は業界や組合員企業の視点から、景気が上向いたと思える判断基準として今後、最も重視する事項について聞いた。

製造業においては、「受注量の増加」が最も多く、「売上高の回復」（販売量の増加）と続いた。その他としては、「高額商品の売れ行き」「地価の上昇」「雇用環境の改善」が挙げられた。

非製造業では、「顧客（来客数）の増加・消費者動向の改善」「客単価の上昇・消費者需要の増加」と消費者の動向に視点を置いた回答が多く、続いて「雇用環境・賃金の改善」「受注量の増加」「稼働率の上昇」「設備投資の拡大」などを景気回復の判断基準とする回答が得られた。

この判断基準の結果から見ると、景気回復には消費・需要の拡大による経済全体の底上げが不可欠であり、そのためには、消費を支える国民の生活と経済面の安定が図られなければならない。雇用環境全般の課題解決と賃金面での改善が急務と思われる。

## ■ 業界の声

### 【製造業】

- 食料品（洋菓子製造）／新型インフルエンザの余波が続き、関西方面の百貨店、大手スーパー向けが低調。又台湾向け輸出も円高により低調。5月以降食品関連にも消費低迷が波及している。
- 食料品（製麺）／観光土産としての販売量も減少してきた。外食も控えられている印象。ほうとうに頼るばかりでなく、新商品の開発が急務。
- 食料品（菓子）／売上高は不変だが、取引条件が厳しくなっている。消費者が買い控えている状況。
- 繊維・同製品（織物）／郡内産地が得意とする中高級生地使用の服の小売が相変わらず悪く、バーゲンでの販売が多い。整理加工業者の休みが多くなり、納期対応に問題が生じた。
- 紙・紙加工品／重油価格は上昇、原材料価格は底打ち。取引先であるデパートの仕入れが15%減少。
- 窯業・土石（砂利）／大型の公共工事については入札から工事開始まで長期間要す案件もあり、年度当初のため需要には結びついていない。11月頃には回復してくると思われるが、そこまで持ちこたえられるか。
- 鉄鋼・金属／一部の自動車関連部品に関して50%位の回復が見られるが、これ以上の回復は見込めない。また、半導体関連は依然として30%位の稼働率である。
- 一般機器／週休5日でも仕事がない状況。
- 電気機器／景気底打ちの発表後も、以前より悪条件での受注（仕事があっても納期は厳しく、安価を強いられる）により仕事を受けても、赤字になってしまうという声を聞く。

## 【非製造業】

●卸売（紙製品）／製造業を中心とした景気回復が見られない限り目立った需要はでてこない。中国の需給に大きく左右される。

●卸売（宝飾）／店頭販売が大きく落ち込み、流通在庫の調整等があり、生産は更に大きく落ち込み。宝石研磨加工の不調、製品加工の不調等で業界は苦しい。

●小売（食肉）／ゼネラルブランドの大型店の相次ぐダンピング競争に巻き込まれ、専門店はついていけない状況。外食店も不振を極め小卸も厳しく昨年比で大きく売り上げを落としている。

●小売（電機製品）／家電3品目のエコポイント制度で薄型テレビを中心に景況感が出てきた。しかし関東近県に比べ山梨は伸びていない。また価格ダウンもあり、粗利が取れない状況。更に昨年からメーカーの在庫調整の影響で品不足の機種も出始めた。6月出荷のエコ対象3品目の伸長は、テレビ10～15%、エアコン10%、冷蔵庫10%。

●小売（石油）／6月は中東原油の高騰により元売り各社は平均卸価格を3円程度の値上げし、県内各給油所も3円程度の値上げを実施した。（ガソリン122円/ℓ、軽油99円/ℓ）

●宿泊業／各施設ともに大幅なコストの削減を図っているが、特殊建築物調査に係る費用の大幅な値上げなどコスト削減が出来ない。インターネットによる販売の台頭で、お客様が分散。インターネット販売の占める割合が増加し、エージェン特経由の予約が減少。土曜日も満室にならず、夏休みの予約もまだ少ない。新型インフルエンザによる修学旅行のキャンセルや延期などで間際のキャンセルにより空室が埋まらない。中国からのインバウンド客の減少が大きい。

●建設業（総合）／年度初めの公共工事の発注があり、今後更に増加が見込まれる。建設業界に対する金融機関の査定も厳しいため、これから必要となってくる受注増に伴う増加運転資金の確保が難しい。

●建設業（型枠）／現在出ている工事は公共工事（耐震補強工事を含めて）がわずかしかなく、民間工事はほとんど無い。例年であれば秋からの着工工事の見積依頼がある時期ではあるが、それもなく、今年後半の受注が見込めない。

●建設業（鉄構）／ここにきて鋼材価格が下がったため、それに引きずられる形でそれ以上に受注価格が下がり、通常6万円/tは確保したい加工費が3万円程度しか上乗せできず、ほとんどが赤字工事となっている。当業界は、設備投資に関連しているので景気に対して1年ほど遅れる。

●設備工事（管設備）／上下水道局からの共同受注工事量が回復傾向にある。その結果共同購買事業である材料購買が少々上向いている。今後も共同受注の確保努力により、収益増加を期待。

●運輸（トラック）／景気の悪化が今後更に進み、荷主から運賃値下げ要求が起こると予想される。トラックは労働時間の規制から長距離運転への対応が困難なため、今後トラックドライバーの給料は更に低水準で推移していく。燃料価格もじわじわと値上がりしている。